

6. 令和5年度の実施計画案

6.1 ニホンイタチ防除に関する項目

6.1.1 伊良部島及び下地島におけるイタチの捕獲

下地島全域及び伊良部島全域を250mメッシュに区切り、各メッシュに2台程度のDocを設置したところ、令和4年度末現在、下地島では585台、伊良部島では1,071台のわなが稼働中である。次年度は、令和4年度に設置したわなを毎月1回程度点検するとともに、カゴわなを用いた集中捕獲（主に下地島空港西側の地域根絶エリア）を年4回程度実施する。

また、令和3年度からの取組を継続し、捕獲個体の骨の計測値と骨端の化骨程度の観察をもとに、捕獲個体の性及び齢の判別を行う。

6.1.2 捕獲データ、糞探索犬及び糞DNAからの個体数推定

令和4年度と同様に、下地島及び伊良部島において、探索犬による糞の採取を行い、採取した糞のDNA解析（東邦大学へ依頼）による個体識別を実施し、個体数推定を試みる。また、捕獲データをもとにハーベストベースドモデルによる個体数推定を試みる。

6.1.3 希少種生息状況調査及び調査方法の検討

ニホンイタチ防除の成果を図るため、捕食されていると考えられる爬虫類3種（ミヤコカナヘビ、キシノウエトカゲ、サキシマキノボリトカゲ）の生息状況調査を実施する。下地島及び伊良部島の14エリアを調査地とし、夏季（7月から8月上旬）と秋季（9月下旬から10月）に各1回、対象種の確認しやすい天候及び時間帯において、目視によるラインセンサス調査を実施する。また、サキシマスベトカゲ及びミヤコヒメヘビについてのモニタリング手法を確立するための検討を行う（図6-1）。

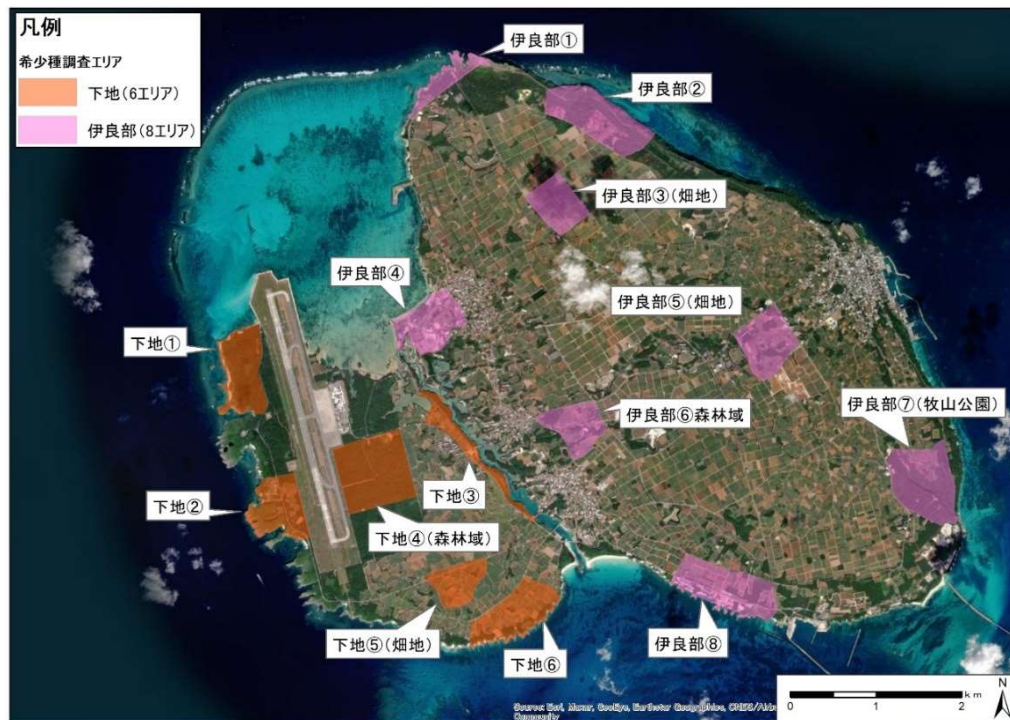


図 6-1 調査予定エリア

6.2 ノヤギ防除に関する項目

6.2.1 西表島における生息状況の把握

西表島全域をメッシュに区切り、これまでに判明しているノヤギ確認地点や他事業を含めたモニタリング実施地点を整理する。また、情報が不足している地域等において、自動撮影カメラによるモニタリングを実施し、西表島におけるノヤギの生息状況を把握する。

6.2.2 西表島における捕獲作業

上記の調査により把握した生息状況をもとに次年度の捕獲作業の実施エリアを選定する。嘉佐崎エリアに関しては、カメラで確認された残存個体を排除するため今年度に引き続き捕獲を実施する。捕獲作業は、主にくくりわなを用いることとし、自動撮影カメラによるモニタリングと並行して行う。

6.2.3 やんばんる地域における生息状況の把握及び捕獲作業

令和3年度の作業部会で示したノヤギの目撃地域（辺戸～奥、高江のエリア）において、主にくくりわなを用いた捕獲作業を実施する。捕獲作業は自動撮影カメラによるモニタリングと並行して行う。

6.2.4 各地域における捕獲計画の検討

西表島及びやんばんる地域のそれぞれにおいて、生息状況調査の結果を踏まえ、以降数年間の段階的な目標や捕獲手法等についての具体的な計画を策定する。

令和4年度 外来種対策事業（哺乳類対策） 報告書

令和5年3月

発注者 沖縄県環境部自然保護課

〒900-8570 沖縄県那覇市泉崎 1-2-2
TEL 098-866-2243 FAX 098-866-2240

請負者 株式会社島嶼生物研究所